

平成31年度 知立南中学校学校評価の結果について

昨年度と同じように生徒を対象にしたアンケート結果も参考にして、保護者の皆様に実施した。アンケート回収率は 83.9%(79.3%)である。評価の基準は、「成果が現れた・あてはまる」と「どちらか」と成果が現れた・どちらかというにあてはまる」の合計を評価Aとして、その割合(%)を基に、次のように5段階で示した。評価Aは「4」と「5」の合計。()内は昨年度

0～20%…1 20～40%…2 40～60%…3 60～80%…4 80～100%…5

*の内容は、生徒評価と教員評価だけの項目

網掛けは評価Aが3以下

下線 は、次年度への課題

1 確かな学力の育成について

	(生徒評価)	(保護者評価)	(教員評価)
①先生は、生徒にわかりやすいように、工夫した授業をしている。	3 56.4% (3 57.5%)	3 57.8% (3 53.5%)	5 89.5% (4 73.0%)
②先生は、生徒に家庭学習がしやすいように家庭学習で取り組むことを示し、きちんと指導している。	4 74.1% (4 76.4%)	3 57.3% (3 55.7%)	3 57.9% (3 45.9%)
*授業では、発言や発表をしようと取組んだ。(生徒) *発言を促す授業づくり、発問の工夫をした。(教員)	3 49.7% (3 53.7%)		4 76.3% (4 70.3%)
総合的な評価	3. 2	(3. 2)	4 (3. 7)

2 豊かな心の育成について

	(生徒評価)	(保護者評価)	(教員評価)
③先生は、進んであいさつができる生徒を育てている。	5 85.8% (5 86.0%)	4 71.9% (4 75.9%)	5 84.2% (5 86.5%)
④先生は、生徒に時間や規則を守ることの大切さを指導できている。	5 88.3% (5 89.7%)	5 84.4% (5 82.4%)	5 97.4% (5 91.9%)
⑤先生は、生徒にいじめや差別がいけないことだときちんと指導している。	5 80.6% (5 82.8%)	4 75.6% (4 67.1%)	5 97.4% (5 89.2%)
⑥先生は協力できる学級づくりに努めている。	4 67.3% (4 67.7%)	5 83.9% (4 72.3%)	5 86.8% (4 73.0%)
⑦先生は、生徒に思いやりの心や命の大切さを指導できている。	5 80.8% (4 73.4%)	5 80.3% (4 73.9%)	5 89.5% (5 81.1%)
⑧先生は、行事を充実させ、生徒に感動体験や成就感を味わわせている。	5 88.7% (5 88.9%)	4 78.3% (4 70.8%)	5 81.6% (4 75.7%)
*生徒会や委員会活動に積極的に取り組んだ。(生徒) *当番活動を責任をもち行動することの指導。(教員)	4 79.2% (5 80.5%)		5 82.6% (4 78.4%)
総合的な評価	4. 6	(4. 5)	5 (4. 6)

3 健やかな心身の育成について

	(生徒評価)	(保護者評価)	(教員評価)
⑨先生は、生徒を理解しようとよく努めている。	4 75.4% (4 71.8%)	4 76.1% (4 69.6%)	5 92.1% (5 89.2%)
⑩先生は、生徒が部活動で有意義に過ごせるようにしている。	5 86.3% (5 89.0%)	4 66.0% (4 64.2%)	5 84.2% (4 75.7%)
総合的な評価	4. 3 (4.3)		5 (4.5)

4 安全な学校づくりについて

	(生徒評価)	(保護者評価)	(教員評価)
⑪先生は、PTAや学校ボランティア等と協力して生徒の安全や事故防止などによく配慮している。	5 93.6% (5 91.0%)	4 76.4% (4 74.6%)	5 97.4% (5 89.2%)
⑫先生は、清掃などを通して教育環境整備に努めている。	5 81.4% (5 80.4%)	4 73.7% (4 70.8%)	5 94.7% (5 64.9%)
⑬先生は、生徒が安心して通うことができる学校づくりに力を注いでいる。	4 79.1% (4 78.8%)	4 79.6% (4 73.9%)	5 89.5% (5 75.7%)
⑭先生は、生徒が学校で体調が悪くなった時やけがをした時に、適切な対応をしている。	5 82.0% (5 86.3)	5 86.4% (5 81.2%)	5 97.4% (5 91.9%)
総合的な評価	4. 5 (4.5)		5 (4.5)

5 信頼される学校づくりについて

	(生徒評価)	(保護者評価)	(教員評価)
⑮先生は生徒が将来の進路や生き方(キャリア教育)について体験学習や情報提供をして指導している。	4 66.8% (4 60.8%)	4 64.2% (4 61.4%)	4 76.3% (4 72.9%)
⑯先生は、親の相談に適切に応じている。		4 77.9% (4 69.4%)	
⑰学校だよりや学年だよりなどで、学校のことがよく分かるように保護者に伝えている。		4 77.3% (4 77.7%)	
⑱学校は、授業参観や行事、懇談会など保護者が来校しやすい機会を適切に設けている。		5 85.9% (5 83.2%)	
* 地域行事に1つでも参加した。(生徒) * 地域行事に参加することを指導した。(教員)	3 52.5% (4 65.2%)		3 55.2% (2 37.8%)
総合的な評価	4. 0 (4.2)		3. 5 (3.0)

【アンケート結果より】

観点別に見た総合的な評価(生徒評価と保護者評価による総合的な評価)は、昨年度と比べて、生徒評価、保護者評価では、「2 豊かな心の育成」のみが上がっている。保護者評価は18項目中15項目、教員評価は18項目中16項目が上がっている。一方で、生徒評価は微減している項目が目立っている。

全体を見てみると、1「確かな学力の育成について」のみ総合的な評価が3.3と低く、本校の最大の課題であることがわかる。1-①、*から、教員は「わかりやすい授業」「主体的な授業」を目指して授業改善に取り組もうとしていることが伺える。しかし、生徒にとってわかりやすい

授業、発言したくなる授業に至っていない。大型テレビや教師用タブレットなど、この1年間でICT機器の導入が進み、教育環境の整備が進んできている。これらのICT機器を最大限に活用した視覚的な支援に力を入れるなど、生徒にとって興味関心がもてる授業を目指し改善していく必要がある。また、1-②「家庭学習」の項目では、3割を越える保護者、教員が指導や支援に難しさを感じていることがわかる。

◎ 昨年度よりも5ポイント以上上がった項目。(教員は10ポイント以上)

〔生徒〕 ⑧思いやり、命の大切さ ⑰キャリア教育

〔保護者〕 ⑥いじめ・差別 ⑦協力できる学級づくり ⑧思いやり、命の大切さ

⑨行事 ⑩生徒理解 ⑮安心な学校づくり ⑯安全への配慮

〔教員〕 ⑦協力できる学級づくり ⑭境整備 ⑮安心な学校づくり

◎ 昨年度よりも5ポイント以上下がった項目。(教員は10ポイント以上)

〔生徒〕 ⑳地域行事

〔生徒アンケート結果〕

1 回収率 90.6% (昨年度87.5% +3.0%)

2 集計結果

(1) A全体が80%以上 <9項目>

1 あいさつ 2 服装や身なり 3 安全な登下校 4 清掃
6 いじめの悩みなし 8 思いやり・命の大切さ 10 学校行事参加
14 部活動 15 安全への留意

(2) A全体が60%以上80%未満 <8項目>

5 学校へ楽しく 6 学級の問題解決 9 悩み相談
12 提出物 13 キャリア教育 16 生徒会、委員会

(3) A全体が60%未満<3項目>

11 わかりやすい授業 19 発言や発表 18 地域行事
⇒授業の在り方を見直す必要がある。

3 各項目の昨年度との比較

(1) + <5項目>

3 安全な登下校 4 清掃 8 思いやり・命の教育
9 悩み相談 13 キャリア教育
20 地域行事

(2) - <9項目>

2 服装や身なり 6 いじめ 11 わかりやすい授業 12 提出物
14 部活動 15 安全への留意 16 生徒会、委員会
17 発言や発表 18 学校行事

(3) ±0 <3項目>

1 あいさつ 5 学校へ楽しく 7 学級の問題解決

3 考察

○清掃活動に熱心に取り組む姿が目立ってきており、日々の活動によってきれいな環境が保たれてきている。自分たちの手で気持ちのよい学校づくりを進め、生徒が達成感を感じることができるように心がけていきたい。

○先生は悩みや相談に親身になって応じてくれたという設問に対して、昨年度と同様に増加傾向にある。今後も、生活日記「みなみ」でのやりとりや普段学校生活における対話、教育相談等、様々な手段で生徒とのやりとりを大切に、小さな変化を見逃さず早期対応できる生徒指導につなげていきたい。

○相手の立場や気持ちを考える道德の授業が定着してきた。さらに、日々の道德の授業において、多面的にものごとと見ることや、他者の意見に耳を傾けることを通して、相互理解する機会を大切にさらなる充実を目指していきたい。

○様々な体験活動や話を聞く機会を通して、自分の将来や行き方について考えることができた生徒が増えてきた。今後はより自分ごととして取り組むことができるように、効果的な事前指導や出会わせ方を工夫していきたい。

△自らあいさつできる生徒は昨年度から横ばいで推移している。「どちらかといえばあてはまらない・あてはまらない」と答えていると生徒は、学年が上がるごとに増えている。そこで、生徒会主体のあいさつ運動など生徒主体の取り組みに力を入れていき、さわやかな学校づくりを生徒とともに目指していきたい。

△学校が楽しいと回答した生徒が全体の8割程度を占めている。一方で、どの学年も1～2割の生徒は楽しいと感じていないことがわかる。学級・学年・部活動などでよい雰囲気作りに心がけ、ひとりひとりの表情の変化などに気を配っていききたい。「居場所づくり」「絆づくり」を意識した学級づくり、学年づくりを進めていきたい。

△昨年度と同様、9割程度の生徒が学校行事に進んで参加できたと回答している。生徒にとってよりよい行事となるように、生徒目線での改善をさらに進めていきたい。

△交通ルールを守り、安全に登下校しよう意識している生徒が多い。しかし、1割程度の生徒が、登下校でひやりとする経験をしていることがわかる。自転車通学者の交差点での一時停止や小学生と登校時間が重なる時間帯など、気をつけなければならないケースも多くあり、随時交通安全指導していく必要がある。被害者にも加害者にもならないように、情報を伝えたり、注意喚起をしていく必要がある。

●いじめに関する項目では、昨年度と同様にいじめと感ずることがあると回答した生徒が1～2割程度いる。生徒の小さな変化に気付くことができるようにアンテナを高く保ち、小さな芽のうちに対応できるようにしていきたい。

●授業で発表発言をしようとしたという生徒は、学年があがるほど減少していることがわかる。また、わかりやすい授業という項目でも同じ傾向にある。興味関心をもたせることができ、意見を言いたくなるような授業づくりを心がけ、「わかった・できた」が生まれる授業を目指していきたい。

●地域の行事への参加に関する項目では、全体的に低い値となっている。本年度は、地域の防災訓練への参加を呼びかけ、1・2年生の一部の生徒は参加することができた。しかし、3年生を中心に地域とのつながりは薄いことがわかる。継続して防災面の連携からはじめ、他の行事などでもつながりを強められるような働きかけを考え実行していきたい。

●学年で差があるものの、提出物をきちんと出せていないと自覚をしている生徒が多くいる。当たり前のことが当たり前にできる環境づくりをすることで、生徒の意識を高めていき

い。

全体的に落ち着いた学校生活を送れているが、学習面の課題は大きい。学年によって生徒アンケートの結果に差が生じているが、系統的に成長していくことができるよう、特に、主体的な学び、対話的な学習活動を意識し授業改善に取り組みたい。また、自己肯定感を高め、自信をもって学校生活を送ることができるように支援しながら、生徒と教師が同じ方向を向いて進んでいきたい。

〔保護者アンケート結果〕

1 回収率 83.9% (昨年度 81.9%、+2.0%)

2 集計結果

(1) ＋（2ポイント以上）になった項目 <14項目>

2 時間や規則	4 環境整備	5 安心できる学級	6 いじめや差別
7 協力できる学級	8 思いやり・命の大切さ	9 生徒理解	
10 行事	11 わかりやすい授業	13 キャリア教育	
14 部活動	15 けがへの対応	16 相談	20 開かれた学校

(2) －（2ポイント以上）になった項目 <1項目>

1 あいさつ

○ 昨年度よりもポイントを上げている項目が多くなった。

まず、項目7の協力できる学級83.7%は昨年度(71.9%)より11.8ポイント増加している。1年生は90%に達し、3年生は昨年度より16.7ポイント増加している。担任を中心に学級づくりに注力していることがわかる。ただし、Bの割合が学年を追うごとに増加しており、3年生は16.8ポイントと1年生の倍以上の数値となっている。学年を重ねるに当たって生徒主体の活動が増加し、生徒に委ねる部分が増え教師の目が届いていないことが一つの事由になっているのではないかと思われる。教員の関わり方について再度見直し、安心して過ごせる学級づくりを目指し改善をしていきたい。

項目15（けが等の対応）および項目18（開かれた学校）については、昨年度よりポイントが増加し85%をこえた数値となった。安心して通える学校、開かれた学校として大切なポイントであり、さらに見直しができる部分をみつけ、安心安全な学校づくりに努めたい。

項目6（いじめや差別）は、前年度より8.6ポイント増加している。必要に応じて適切な指導を心がけている結果であると考えられる。その一方で、2、3年生の結果を見ると2割程度が不安を感じている。普段からより近くで生徒を見守り、アンテナを高くして早期発見早期対応を心がけることが大切である。生徒との触れ合いやみなみ（生活日記）など日常の学校生活から、小さな変化や心の状態、気持ちの変化について敏感に気づくことができる力をつけたい。さらに、教職員間で情報交換を密にし、より多くの目で全校生徒を見守り、同一歩調で声かけ等をしていきたい。

項目8（思いやりや命）は、昨年度同様に大きくポイントを上げている。道徳の授業の充実が進んでいることが伺える。「考える道徳」「議論する道徳」が展開できるように、さらなる授業改善に努めていきたい。

● 昨年度から継続して項目11（工夫した授業）と項目12（家庭学習）の2つは60%未満の数値となっている。どちらも学習に関する項目であり、学校教育の根幹をなすものである。本校には、理解するのに時間がかかる生徒、外国籍生徒、特別な支援が必要な生徒など、

様々な生徒が在籍している。そのため、ユニバーサルデザイン的な工夫を常に心がける必要性が増している。視覚的支援、興味関心を引き主体的な学びにつながるような教材開発や単元構想等、常に「わかる授業」を目指して高い意識をもつことが求められている。項目12（家庭学習）については、家庭学習の指導や支援に不足があることが伺える。よりきめ細かな家庭学習の指導支援が必要であるが、まずは具体的な課題をきちんと把握をする必要がある。現状の困りごとをみつけ、改善していきたい。

観点1「確かな学力の育成」

ア 生徒評価の項目①「工夫した授業」については、過去5年間55%前後で推移をしている。また、項目*「発言や発表」でポイントは昨年度より4ポイント下げ、50%を切ってしまった。「確かな学力の育成」は、最大の課題であることがわかる。今年度は、普通教室への大型テレビ導入や教師用タブレットの導入など、ICT機器が整備された。これらを教師が有効活用し、さらなるユニバーサルデザイン的な支援の充実を図っていきたい。項目①の教員評価は昨年度から16ポイント増加、項目*は6ポイント増加していることから、教員が意識して授業改善に取り組んでいることが伺える。わかる授業づくり、主体的に学習に取り組む生徒の育成、さらに学習内容の定着化をめざし、継続し授業改善に取り組んでいきたい。

イ 項目②「家庭学習の取組」については、保護者評価と教員評価が50%台であった。生徒評価と20ポイントほどの開きがある。家庭学習が効果的な実施ができていないことがわかる。生徒の実態に合わせて手段や方法等の改善を行い、基礎学力アップにつなげていきたい。



観点2「豊かな心の育成」

ア 項目④「あいさつのできる南中生」については、昨年度と同様に生徒・教員の評価は85%前後であった。学校内では、あいさつが自然にできる環境が醸成されてきているが、「どちらかといえばあてはまる」と回答した生徒が40%前後おり、自信をもってあいさつができているとは言いがたい。生徒会有志による「あいさつ運動」など、生徒発の取り組みなど、よい取り組みを今後も継続していき、いつでもどこでもさわやかなあいさつの出来る生徒を育成したい。

イ 項目⑥「いじめや差別」については、「わからない」と回答をした生徒を含め約2割の生徒が何らかの悩みをもっていることがわかる。一方で教員は、97.4%がきちんと指導していると

回答している。このようなギャップが生じている一因に、教員の目が行き届いていないことが考えられる。小さな変化を見逃さないように、普段から生徒とのコミュニケーションを大切にし、生活ノート「みなみ」や教育相談活動の有効活用、教員同士の情報共有を心がけ、生徒理解に努めていきたい。さらに、週1回行う学年会、月1回の不登校・いじめ未然防止対策委員会で情報の共有、支援の仕方の検討を行い、早期発見早期対策を全職員で共通認識で進めていきたい。



ウ 項目⑦「協力できる学級づくり」については、保護者と

教員の評価が10ポイント以上増加している。生徒が一番長い時間を過ごす学級が居心地のよいものになることが大切である。学級づくりへの取り組みが家庭へ伝わっていることがわかる。しかし、肝心の生徒評価は昨年度から大きな変化がなく67%に留まっている。共感的な人間関係を育むことが課題である。生徒同士が関わりあう場面を意図的に設定し、互いに認め合い、温かい人間関係を築き、学級集団の一員として自分の力を発揮できるように支援していきたい。

エ 項目⑧「思いやりの心や命の大切さ」においては、生徒評価、保護者評価ともに7ポイント程度上がっている。特に、生徒評価は、一昨年と比べると17ポイントと大きく数値が上がっている。道徳の教科科に向けて道徳授業の改善に取り組み2年目となり、じっくりと考え、主体的に話し合いに参加する姿が見られるようになってきている。また、体験活動として3年生が、「赤ちゃん抱っこ体験」、「園児との交流会」を実施した。その際に、3年生の優しい笑顔が大変印象に残っている。今後も、対話的な学び、相手の思いや考えについて目を向けられるような活動を日々の授業に積極的に取り入れていきたい。

オ 項目⑨「行事で育つ南中生」では、生徒評価が例年と同じように9割程度が満足をしている結果が出ており、行事を通して達成感、充実感を感じていることが伺える。今後も、ねらいを明確にし、準備や練習はできる限り効率よく実施し、生徒にとってよりよい行事になるように改善を続けていきたい。学習と行事の両立を目指したい。



観点3「健やかな心身の育成」

ア 項目⑪「生徒理解」について、生徒評価、保護者評価とともに昨年度より数値を上げ、過去5年間で一番よい評価であった。その一方で、そうではないと回答している生徒が1年生では4%だが、学年が上がるごとに5ポイントずつ増加し、3年生は14%となっている。これは、卒業に向けて生徒が主体に活動できるように育てていくに当たって、生徒と教員の距離が徐々に開い



ていくことが一つの原因であると考え。段階的に手取り足取りの支援は減らしていくが、生徒の様子を近くで見守り、不安や悩みに対してすぐに相談できるような体制づくりを心がけていく必要があると感じている。また、スクールカウンセラーや心の教室相談員、学生のアイフレンド等の週1回程度の勤務を活用し、生徒や保護者の相談を受けたり、生徒と共に活動する時間を大切にして、生徒理解に努めたい。

観点4「安全な学校づくり」

ア 項目⑬「安全への配慮」については、生徒、保護者、教員評価と全てで数値が上がっている。交通マナーへの意識は確実に高まっていると考えられる。しかし、登下校において学校付近で人が集中するときの公道の使い方には課題がある。一般の通行車両や通行者に対して、配慮が足りない様子が見受けられる。思いやり、譲り合いという面で、自己中心的な行動だと感じる。多角的な視点で、考えさせていくことで、自分の行動について再確認させていきたい。

イ 項目⑭「清掃などを通した教育環境整備」については、昨年度より若干数値を上げている。気

持ちよく学校生活を送ることができるように、日々の清掃活動を生徒と教員が力を入れて取り組んでいる。廊下のよごれとり、敷地内の除草など、こだわりをもって環境整備に取り組んでいる様子が見受けられる。しかし、保護者評価では7割のあたりを推移しており、客観的に見るとまだ不十分な点があることが分かる。さらに、清掃活動を通して心を磨いていけるよう、良い姿を認めながら取り組んでいきたい。

観点5「信頼される学校づくり」

ア 項目⑰「キャリア教育についての体験学習・情報提供」について、生徒評価が昨年度より6ポイント上がっている。各学年に系統性をもたせて、1年生では職業人から学ぶ授業と半日の職場訪問、2年生では達人から学ぶ授業と3日間の職場体験実習、3年生では、進路に係る授業、1日の高等学校体験活動、高校の先生を招いての学校紹介、高校での体験入学への参加等を実施していることが将来を考えるよい機会となっていると考える。各学年で必要な時期にマナー講座を設け、社会人として心構えや礼儀作法について学んでいる。また、「進路だより」の充実や「学年だより」による情報提供を適時心がけている成果だと思われる。ただし、7割には達していないことからまだ改善をしておく必要がある。まず、体験活動のみで終わることなく、しっかりと自分の将来等に生かすことができ、じっくり考える機会になるように事前指導、事後指導に力を入れる必要があると考えている。

ウ 「地域行事への参加」の項目では、生徒評価が10ポイント以上低下している。特に学年が上がるごとに地域との距離が開いていく傾向が見られる。本年度は、知立市防災訓練に合わせて各地区の防災訓練に1・2年生の約110名が参加をした。防災の観点からは、中学生が各地区の重要な人材であることがわかった。来年度以降も、まずは防災の面で「地域に活かされる南中生」「地域に愛される南中生」になれるように、訓練等への参加を働きかけたい。また、地域との連携について、教職員の意識改革を講じる必要性を感じている。



生徒、保護者、教員にとって、「通いたくなる学校」「通わせたい学校」「勤めたい学校」となるように、学校評価アンケート結果をもとに改善をしていく必要がある。まず、生徒との日々の触れ合いを大切にし、お互いに心を通わせ生徒理解を進めていきたい。そこで、生徒の成長、がんばりを認め価値付けることを通して、生徒の自己肯定感を高めたい。本校が目指す「さわやかな学校づくり」を来年度以降も継続して推進していく必要がある。まずは、当たり前のことが当たり前にできる人間力、「あいさつ、時間を守る、身なりを整える、思いやりの心」を身に付けられるよう、教職員が率先垂範することを意識していく。さらに学年が上がっていくごとに、多様な他者と協働して主体的に学校生活を送ることができるよう、系統的に生徒を育てていきたい。

また、本校の課題である確かな学力の育成を目指し、「わかる授業づくり」「認め合える学級づくり」を軸に教育活動を推進していきたい。